

行仙宿、連休用の資材荷揚げと煙突掃除など

◇実施日 4月19日(土) 晴

◇参加者 沖崎吉信、児嶋道夫、濱野兼吉、湯川一郎、梶野照雄

5名

予定では持経宿に連休用の資材を運ぶことになっていたが、行仙宿のモノレールブレーキ不調と小屋の煙突の詰まりが判明し、安全面を優先して行仙宿に行くことになった。



テントの雨対策

荷物満載

燃料フィルター交換

モノレールのブレーキ調整は児嶋さんをお願いした。「見てみないと判らない」とのことだったが、10分ほどでブレーキが利くようになった。流石はバイク屋さんだ。電源開発から頂いた燃料フィ

ルターも交換していただいた。児嶋さんが作業している間に駐機場の屋根テントに板を渡して雨水が溜まらないような工夫をした。一番溜まりやすいところに4本の縦板を渡し、横に4本の板をそれぞれロープや針金で留めた。これで大きな水溜まりはできないと思うが、雨が降った後に確認したい。



水場コックの掃除

煙突掃除

大量の苔が出てきた

登山口の水場は、コックが詰まって水が殆ど出ていなかったが、湯川君がコックを外して掃除し、よく出るようになった。コックの穴が小さく、再び詰まるのが予想されるので、次回にコックを外して直接ホースを継ぐようにしたい。

児嶋、梶野がモノレールで、あとの3人は歩いて登った。終点に着き荷物を降ろして小屋に向かう。ビール1ケースと工具類、アルミアンクルや角材で23kg程になり、ちよつと肩に食い込む。ゆつくり歩いて小屋に着き、管理棟でソーラパネルの枠材を組み立てる。枠が二つ出来上がり、外に出してパネルを取り付けた。

パネルの枠作りの間、児嶋さんはストーブの煙突掃除をしてくれた。手招きするので行ってみると、煙突から大量の苔が出てきた。ストーブ直近は焦げて黒くなっているが、上に行くほど苔そのものが出てきた。かなりの量で、これでは煙が外に出るはずがない。煙突の先端から中へ落としているようなので、後日先端に網をかぶせて落とせないようにしたい。

お昼前になり、作業を中断して昼食を摂る。食後はコジマカフェが開店し、暖かいコーヒーでゆっくり休憩できた。



水場径の掃除

水流は回復

パネルを枠に取り付け

児嶋、湯川、濱野の3人が水場確認に向かった。児嶋さんはブロワーを持って落ち葉の掃除も行った。水場の水流は回復していた。午後1時半に2枚のパネルを枠に取り付ける作業が完了。段ボールを被せて日が当たらないようにした。

午後1時頃に登山者が一人北上、午後1時半に小屋南のテーブルで一人が食事をしていた。沖崎さんが応対する。京都府の豊田君で

白谷トンネルの登山口から笠捨山へ行ってきたらしい。一緒に降りたら登山口まで送る、と言うと「お願いします」との答えで、補給路登山口まで一緒に降り、白谷トンネルまで送って別れた。

(記：梶野)



2枚が完成



沖崎さんが応対



本日の参加者

行動タイム

09:00 補給路登山口 10:00→10:16 コジマハウス→10:41 行仙宿
13:54→コジマハウス 14:00→14:17 補給路登山口